

法人名	社会福祉法人 白百合会
施設名	白百合乳児保育園

発表者名 (職名)	山田 沙知 (保育士)	住所	横浜市神奈川区亀住町9-5		
発表者名 (職名)		TEL	045-461-5031	FAX	045-453-3271
発表者名 (職名)		メールアドレス	sirayuri-.akaiyane@cyber.ocn.ne.jp		
		URL	https://shirayuri-nyuuji.com		
		定員	103名	職員数	34名

発表の概要・内容

3歳児クラスにじぐみ21人と保育士2名での毎日の保育とても楽しく、ごっこ遊びを通して子どもたちの成長が見られた充実した1年間だったのでお伝えしたいと思います。

【保育士と一緒に楽しい春】

4月進級した頃は、お友だちと一緒に遊ぶというよりも保育士と一緒に遊んだり、同じ空間で同じ遊びをそれぞれがしている平行遊びが多かったです。私たちは一人一人と一緒にその子が楽しんでいる遊びに入っていき一緒に思いきり楽しんで遊んできました。

【保育士とごっこ遊びを楽しんだ夏】

保育士と友だちが楽しく遊んでいるのを見て「なにしてるの？」と数人入ってくるようになりました。この頃部屋で3匹のこぶたの手遊びをみんなで楽しんでいたので、ピアノで3匹のこぶたの手遊びの歌を一人が弾き、もう一人がオオカミになって追いかける遊びをよくクラスで楽しんでいました。



【空想の馬が見えるようになった秋】

白雪姫を家で見てきた一人の子が「〇〇ちゃんのおうまんむかえにくるんだー」と保育士に言ってきました。その話に「先生の馬はもう園庭にいるんだ」と返すと「ほんとだー！」と園庭の方を目をキラキラさせて見ていました。それを見ていたほかの子も「〇〇のおうまんもいるよ！」と次々に園庭を見ながら空想の馬について話していました。

【お友だちと遊ぶことが楽しくなった冬】

空想の世界が落ち着いてくると、ごっこ遊びが自然と子どもたちから始まって広がっていきました。お姫様ごっこ、病院ごっこなど、「今これを置いたら楽しいかも」と物を置いて子どもの反応を見るのは楽しいことでした。また、外遊びでも鬼ごっこやかくれんぼをすると、クラスの子のほとんどが入ってきて一緒に楽しむようになりました。



【1年を終えて】

初めは保育士と遊ぶことが楽しかった子どもたちでしたが、一人ひとりの楽しい遊びを一緒に楽しみ、無理にごっこ遊びに誘うのではなくその子のタイミングで一緒に楽しいを共感出来たことで、友だちとの関わりも増えてきたと思います。お友だちと遊ぶことが楽しくなってきた頃、空想の「おうまん」という共通のイメージの世界を楽しんだことで、さらにお友だちと一緒にいる心地よさや楽しさを感じられるようになったのだと感じました。ごっこ遊びの大切さを改めて子どもたちの姿から学んだ1年でした。

